

田原天南編

清末
民初
中國官紳人民錄

文海出版社印行

田原天南編

清初
中國官紳人民錄

文藻出版社

有限公司
印行

中華民國六十二年二月初版

清末民初
中國官紳人民錄

精裝：一冊

定價：新台幣六百元正

編者：田原天南

發行人：李振華

台北縣永和鎮中興街99巷8號

出版者：文海出版社有限公司

郵政劃撥戶第二七八四號

電話：九二一二六五九號
三四一六九二八號

印刷者：金氏印刷有限公司

臺北市長安東路二段66號

經銷者：全省各大書局

行政院新聞局出版事業登記證局版台業字第〇四四九號

姓氏別表

(イ)

章、印、尹、毓、殷、廢

(ロ)

鹿、祿、勞、婁、樓、盧、郎、路、魯

(ハ)

白、培、莫、梅、麥、潘、貝、柏、帕、巴、裴、樊、馬、范、萬

(ホ)

逢、望、包、寶、彭、方、冒、穆、鮑、濮、龐、牟、鳳、蒲

(ヘ)

米、平、下、邊、那

(ト)

訥、屠、童、都、涂、董、佟、杜、唐、鄧、陶、湯、塔、滕、

德、實

(チ)

忠、池、仲、鈕、陳、張、趙、褚、暢、刁

(リ)

利、柳、力、隆、劉、陸、梁、凌、麟、李、林、廖、呂、龍

(ヲ)

歐、歐、陽、翁、應、恩、汪、溫、王

(力)

岳、華、賀、鄂、花、柯、甘、戈、關、樂、顏、韓、郭、夏、

郝、賈、管、霍、濶、闕、鶴、解、葛、過、魁、何、蓋

(ヨ)

姚、葉、容、雍、豫、楊、余

(タ)

多、段、但、覃、單、檀、戴、譚、卓、達、談、諾、澹、臺、

端木

(レ)

黎、聯、冷、連、廉、厲

(ソ)

莊、粟、巢、崇、宗、桑、祖、倉、宋、蘇、續、孫、曹、曾、

臧、增

(ネ)

年、甯

(ナ)

南、那

(ラ)

樂、羅、來、雷、駱、賴、藍

(ウ)

禹、憚、雲、于、烏

(ク)

虞、瞿、屈、區

(ケ)

景、揭、啓、阮、倪、嵇、荆、桂、元、嚴、奎、原、曾、慶、
蹇、權、彥、計、邢、經、敬

(フ)

文、符、富、傅、賁、武、溥

(コ)

康、伍、恒、洪、顧、鄺、辜、孔、仵、耿、江、胡、項、谷、
古、克、杭、吳、寇、向、公、貢、侯、黃、高、光

(エ)

英、遠、永、閻、易、袁、焉、延、榮

(テ)

程、丁、田、廷、狄、翟、鐵、鄭

阿、晏、安

(ア)

(サ)

札、三、左、崔、查、柴、沙、索、載、賽、薩、蔡

(キ)

牛、仇、曲、渠、喬、汲、恭、宮、吉、玉、祁、季、紀、邱、
希、鞠、魏、龔、金、許、姜、靳、裘、熙、冀

(ユ)

由、熊、庾、喻、裕、俞、尤

(シ)

辛、任、舒、勝、初、汝、司徒、司、史、秋、信、春、師、
祝、姒、余、修、茹、書、蔣、謝、秦、岑、車、儒、譙、錫、
朱、周、徐、壽、醇、肅、戢、沈、常、蕭、焦、祥、商、仇、
升、施、松、尚、饒、章、邵、鍾、聶

姓氏別表

畢、費、斐、閔、苗、繆、馮

(ヒ)

(モ)

孟、門、毛

(セ)

席、詹、盛、善、誠、成、戚、冉、世、石、全、籍、錢、靖、
齊、戰、薛、井、洗

(ス)

瑞、帥、水、鄒

清末民初中國官紳人名錄

二 畫

【丁。カ。刀】

丁士源^{テイセイエン} (Ting Shih—yuan)

字 間槎

浙江省吳興縣人

初め上海約翰書院に學び後英國に留學す、歸來北京崇文門稅務委員、陸軍部軍法司長、民政部顧問、巡警學堂總辦に歷任す。
民國三年一月湖北江漢關監督兼湖北交涉員となる、五年七月免職、六年六月二等文虎章を給せられ、現在京綏鐵路管理局長たり。

二 畫 【丁】

丁平瀾^{テイヘイラン} (Ting Ping—lan)

字 澄如

福建省閩侯縣人

前清中正大鐵路總辦に任ぜらる、民國成立後尙ほ前職に在り正大鐵路監督局長と改名せられ、現在仍ほ該職に在り。

丁世嶧^{テイセイエキ} (Ting Shih—i)

字 佛言

山東省黃縣人

丁氏は山東の大族にして世々巨産を擁せしが氏に至りて中落せり、曾て屢考試に應じ志を得ず、年三十に黽んとして發憤して日本

二 畫 (二)

に航し、法政大學速成科に入れり、卒業後歸郷し法政學堂教習となる、報關甚だ薄し而して晏如たり、武昌の事起るに及び運動して兵を起し遂かに之れに應ぜり、當時巡撫孫寶琦巡警道吳炳湘甚だ之を危みしが氏極力遊説卒に獨立を宣布せり、是より山東人士氏を認めて濟變の才を有すとなせり、嗣いて臨時參議院北京に設立せらるゝに及び舉げられて議員となり又亞細亞日報の主筆となり、共和黨に歸籍し言論文章當時に異彩を放てり、共和統一民主三黨合一せらるゝに及び進歩黨に入り、他日國民黨に對抗し氏同黨間に重きをなせしが、嗣いて張耀曾、湯漪、李國珍等と説議して、民憲黨を組織す、第二革命起り國會解散せられ氏亦亞細亞日報を辭し張東蓀等と中華雜誌を發行せしが政府の忌むところなり又辭去せり、而して五年六月袁世凱世を去り國會重ねて開くに及び總統府秘書長となり當時國務院秘書長徐樹錚と大に拮抗し世論を沸騰せしめたるは世人の記憶に新なるところなり、當時黎氏四凶の目あり、哈漢章、汪彭年、章士釗及丁君なり。年齡三十八。

丁立中 (Ting Li—chung)

字 和甫

浙江省杭縣人

前清の舉人にして城廂自治會々員調業董事となる、年齡五十九。

丁兆冠 (Ting Chao—kuan)

字 又秋

雲南省石屏縣人

二

前清の舉人にして曾て日本に留學し早稻田大學政治經濟科を卒業す、歸朝後法科舉人の資格を得、内閣中書より改めて知縣となり、四川省に派遣せらる、嗣いて警務公所科長高等巡警學堂提調、清理財政局顧問に歷任し民國元年雲南に歸り法政學校校長に任ぜられ、同二年雲南審判廳々長兼司法籌備處々長代理巡按使署秘書に任ぜられ、五年十二月同省政務廳長となり以て今日に至る。年齡三十六。

丁宏荃 (Ting Hung—chian)

字 振之

江蘇省無錫縣人

丁君元海軍々人、宣統三年天津警察廳の探偵長に任命し楊廳長の寵任を蒙れり、當時南方風雲動き北方亦險象を生ずるや、丁君大に活動し、北は北京南は上海に至り偵察を密布し、革黨檢舉に力め、功を以て勤務警察長に昇り保安警察隊長を兼ね、廳長の機密に參畫し益々信任を得、威を内外に振ひ現に仍ほ動輒せり。

丁求真 (Ting Chiu—chên)

字 任生

浙江省台州人

宣統中千葉醫學專門學校に修學せしが辛亥の秋適々第一革命に遭ひ、乃ち留日支那醫學學生を糾合して赤十字隊を組織し、返へりて戰傷者救護事業に従事せり。

民國元年南北統一後復校して専ら醫學を研究せり、同四年帝制問題起り各地反袁の聲舉るや、又歸國して五年四月浙江の獨立を助けたり。年齡三十二。

丁秉彝 (Ting Ping—i)

字 訓初

山東省諸城縣人

前清の秀才にして光緒末年東牟公學堂に教鞭を執り、兼て渤海日報を編輯せり、民國成立後鐘聲報を經營し社長兼主事となる、現に山東商業銀行の董事たり。年齡四十餘。

丁 桓 (Ting Huan)

字 愚庵

浙江省杭縣人

前清の秀才にして曾て山東候補知縣となる、宣統二年漢口公論報の編輯となり、同三年山東曹縣警察署長となる、第一革命後又漢口に來り大漢報編輯を擔當し、民國五年天聲報記者となり同地報界に侃諤の論をなせり。年齡三十九。

丁效蘭 (Ting Hsiao—lan)

安徽省合肥縣人

現在陸軍第九混成旅長たり。

丁惟良 (Ting Wei—liang)

字 善丞

山東省日照縣人

前清の附生にして曾て北京外城巡警總廳八品等官となり、民國成立後京師警察總廳總務處第一科等正に任ぜらる。

丁惟魯 (Ting Wei—lu)

字 葵野

山東省日照縣人

前清の進士にして直隸知府、提學使に歷任す、光緒二十九年教育觀察の爲め日本に來り、又留日學生監督となり東京に居る數年なり。民國二年一月山東省濟西觀察使となり、同四年帝制問題起るや國民代表となる、民國五年冬日本が山東に民政署を設置するや大に反對し王鈞と共に上京して具に運動せり、政籍を共和黨に置き後國民黨に入る。年齡四十九。

丁惟汾 (Ting Wei—fèn)

字 鼎臣

山東省日照縣人

日本明治大學卒業にして歸朝後法政學堂校長に任ず、民國元年省議會議員となり、同二年衆議院議員に擧げらる、山東國民黨の重鎮にして人となり重厚、地方に人望あり、四五年の間上海に來り反

其運動に従事せり。年齢四十一。

ティンウイ

丁崇吉 (Ting Ch'ung—chi)

字 鑑仙

浙江省定海縣人

初め上海出洋局に學び、同治十一年官費を以て米國に留學し、麻州某高等學校に入り文科を修め、光緒二年哈佛大學に入り、光緒七年歸國す、歸國後大沽口に水雷戰術を研究すること、凡そ四年、光緒十一年上海各新聞社の探訪員と爲り、次て海關辦事員に任じ、光緒三十四年署理海關監督に充たり、兼ねて統計科副文案に任じ、現に辦事料長たり。年齢五十七。

ティンウイ

丁象謙 (Ting Hsiang—chien)

字 六皆

安徽省阜陽縣人

前清光緒三十一年日本に留學し、東洋大學師範科、早稻田大學政治經濟科を卒業し、又中央大學研究科に入れり。

辛亥の秋十月武漢義旗を翻へすや、乃ち歸國して安徽軍都督府高等政治顧問となる、民國成立後臨時省議會議員、安徽法政學堂教員となり、又江淮大學を創立せり、嗣いて民國二年參議院議員に舉げられ、侃諤の論をなし、獄に囚はる、所謂八議員の一人なり、同三年出獄して家に歸り、復世事を問はざりしが、同五年國會復活後入京して前職に就き、六年六月復解散せられたり。年齢四十一。

ティンフン

丁傳紳 (Ting Fu—shên)

字 桂樵

湖南省長沙人

曾て日本に留學し、法政大學を卒業す、歸朝後四川總督府幕僚となり、民國元年以來浙江都督府秘書、興武將軍署秘書、浙江、錢塘道尹に歷任す、民國五年四月浙江獨立後辭職し、嗣いて六月同省都督府秘書となる。

ティンタウ

丁道津 (Ting Tao—tsin)

字 佩瑜

貴州省金縣人

前清の廩生にして刑部主事となり、山東候補道として軍機處記錄に登る、嗣いて山東省署理泰武道に任じ、山東撫法使、布政使に歷任せり。

民國成立後財政部賦稅處議員より庫藏司長に任ず、現在仍ほ勤職せり。年齢四十四。

ティンワン

丁萬鐘 (Ting Wan—chung)

奉天省開原縣人

開原圓々教徒の筆頭にして家資百萬元、宣統元年開原工務會協理に推され、城内東街に雜貨雜穀を營業せり。年齢四十一。

丁槐 (Ting Huai)

字 衡三

雲南省鶴慶縣人

前清中曾で督官となる、光緒十三年支佛戦争に功あり以て提督に進めらる、嗣いで雲南提督となる第一革命の際に兵を湖南に統べ民國成立後長江巡閱使となり鎮武將軍を授けられ後總統府顧問となる。

六年七月復辟の際黎總統幽閉の狀態に在るや黎氏の命を以て總統印璽四個を携へ上海に走り租界ホテルに滞在中、官印窃盜罪として合同裁判に付せらる、丁氏は曰く該印は黎氏の命あるにあらずんば馮氏に交付せずと、或は曰く丁君之を國民黨員に賣却せんと欲せしなりと、現在奮威將軍を以て將軍府に列す。

丁震 (Ting chén)

福建省閩侯縣人

前清中陸軍部主事となり民國成立後陸海軍會計審宣處科員に任せられ、現在仍ほ勤職せり。

丁魯 (Ting Lu)

江西省豐城縣人

前清の監生なり曾て郵傳部學習主事となり、民國成立後交通部郵

傳司材料科主事兼本科辦事並兼郵傳會計司稽核科主事となる。

丁傳宣 (Ting Chün-hsuan)

字 雨生

浙江省新昌縣人

前清光緒二十六年以後本籍學界に歷職し又縣會議員澄潭鄉々董に舉げられしが、第一革命の際匪徒地方を騷擾す、此に於て氏民團を召集し之を擊破せり、功を以て新昌縣知事となり新昌民團局長を兼ね嗣いで衆議院議員に舉げられ民國二年解散後は南旋して實業に従事せしが、同五年國會復活して再び入京し六年六月復解散せられたり。年齢四十九。

丁錦 (Ting Chin)

字 慕韓

江蘇省無錫縣人

前清中陸軍部衆議院諮議官となり、民國成立後陸軍部參事廳參事に任せられ、現在陸軍部軍務司長たり。

丁濟生 (Ting Chi-sheng)

字 梅巖

福建省建寧縣人

拔貢出身にして前清中法政學堂を卒業し江西省に派遣せられ直隸州判に補用され客籍學堂學監、建寧縣濰川書院掌院、高等小學校校長、邵武中學校々長に歴任せり。

二 畫 「丁、力、刁」

民國成立後衆議院議員に舉げられしが六年六月重ねて解散せられたり。年齡七十。

丁寶鈞

(Ting Pao—ch'uan)

江蘇省淮安人

光緒十五年の進士にして同二十八年一月廣東省潮嘉道に任ぜられ三十一年五月山西省冀寧道に轉ず三十二年九月同省按察使に昇任し三十四年一月又同省布政使に宣統元年十一月遂に同省巡撫に累進す、嗣いで辭職し上海に隱れ意を政界に断てり。
丁氏平生山西に在り同省にて民望あり、且つ治民の術に長じ當年攝政王に倚重せらる、曾て布政使時代に時の巡撫寶榮を助けて英國に對し山西礦山回收問題を解決せり。

力鈞

(Li Chin)

曾て舉人となり前清末農商部郎中、北京工藝局總辦兼務、宮中侍醫、奉天稅捐徵收局長(張元奇が奉天巡按使たるの時なり)、奉天林務局長兼務、將軍府衛生顧問、農商部東三省林務顧問等に歷任せしが、張作霖(今の奉天)將軍たるに及び専ら林務局長に任じ兼務を辭せり、又氏の醫術は張作霖、馮德麟の信頼するところとなり其尊敬するところとなる。年齡六十。

力樹勳

(Li Shu—hsian)

字 舒東

福建省永泰縣人

前清監生出身にして曾て海軍部軍醫司科員となり、民國成立後陸軍部軍醫司科員に任ぜられ現在仍は勤續せり。

刁慶湘

(Tiao Ch'ing—hsiang)

字 信德

廣東興寧縣人

初め布哇に學び次て上海聖約翰大學に入り同校を卒業して醫學士の學位を得、光緒三十四年上海同仁醫院醫員と爲り宣統二年南非洲特蘭斯瓦爾某醫院の主任醫員と爲り、民國元年半官費を以て米國に留學し「ペンシルバニヤ」大學に入りて醫學を修め民國二年醫學博士の學位を得、次で「ペンシルバニヤ」中國學會の會長と爲り近世醫學の急務、公衆衛生教育等の文を撰し醫學雜誌に載す、民國三年歸國し上海に於て醫學教員に任じ民國五年上海同仁醫院主任醫員と爲り、並に中華醫學會々計、聖約翰同門生會長等の役名を兼ね。年齡三十五。

三 畫

【三】

于冲漢

(Yü Chung—han)

奉天省本溪縣人

前清の秀才にして多年奉天の政局に當り多く邦人に相談られ又日支合辦事業に關係せり。

光緒十七年熱河の匪徒討伐の功を以て縣丞となり、翌年直隸提督衙門文案に、十九年候補知縣に升任す、二十三年東京外國語學校教授に任じ日露戰爭の際に我が特別任務に服し六等勳章を贈らる三十二年遼陽西路巡警事務を辦理し候補知府を以て遼陽交涉局長となる、宣統二年長春道衙門幫辦に、三年奉天交涉司隨辦となり記名道員に補せらる。

民國元年遼陽知州に、同年八月外交部特派奉天交涉員に應任し三年七月辭任す、氏は現に瀋陽の日支合辦電燈公司總辦たり。年齡四十九。

于式稜

(Yü Shih—ling)

字 淵若

京兆人現住天津

前清中翰林院庶吉士より候補道となる、宣統元年直隸總督たるの時

三 畫 【于】

幕僚となり爾來十餘年同職に勤続せり、又曾て統計局長たり。年齡五十七。

于伯循

(Yü Po—hsün)

字 右任

山西省人

曾て日本並に英國に留學す、光緒末年歸國し上海に民吁報を發行し革命思想を鼓吹せり、當時北京政府を攻撃し並に盛んに排日記事掲載せしが駐滬本邦領事の抗議に遇ひ發行停止を命ぜられたるが後更に佛租界に民立報を發行し前議を主張せり。

民國元年南京臨時政府設立の際交通次長となり南北統一後辭職して又民立報を經營せり。

氏は舊同盟會の有力者にして又放趙秉鈞にも接近せりといふ。年齡五十餘。

于芹

(Yü Chin)

字 朗昆

奉天省鐵嶺縣人

民國成立後吉林實業司科長、國稅籌備處科長、試署濱江縣知事に應任し、民國四年吉林縣知事に任ぜらる。六年十二月現在試署濱江縣知事、吉林縣知事たり。

于俊駒

(Yü Chün—chü)

七

字 季良

直隸省大名縣人

前清中北洋電報學堂を卒業す、嗣いて直隸總督衙門電報司總辦となり後統計局一等科員となる。年齡五十三。

于思波 (Yü Ssu—ipo)

字 沐臣

山東省臨朐縣人

前清中山東優級師範學校を卒業す、嗣いて中學校教員たりしが、民國元年省議會議員となり又衆議院議員に選舉せらる、二年十月解散後山東高等師範學校教員となり政務を國民黨に屬く。年齡四十。

于洪起 (Yü Hung—chi)

字 範亭

山東省福山縣人

前清中北京大學優級師範科を卒業す、民國元年省議會議員となり二年衆議院議員に推されしが同年十月解散さる、後濟南にて金星生命保險公司の經理となる、政務を國民黨に屬く。年齡三十六。

于胡 (Yü Hu)

字 海陽

奉天省柳河縣人

于氏柳河の資産家にして地方に信望あり、公益事業に盡力せりと。家費十五萬。

于珍 (Yü Chén)

字 濟川

奉天省鐵嶺人

明治四十四年五月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、爾後官陸軍歩兵中佐に至る奉天陸軍補習學堂監督となる。年齡三十。

于福鎮 (Yü Fu—chén)

字 祥軒

奉天省金縣人

遼陽に住す、城廂董事會名譽董事、農務會評議員、遼陽州醫學研究會長に歷任し、現に遼陽工務會總理、遼陽電燈公司(日支合辦)監查役たり。年齡六十一。

于駟興 (Yü Ssu—hsing)

字 振甫

安徽省壽縣人

前清の宿儒にして多年京奉の間に在り嗣いて奉天將軍趙爾巽の幕に入り宣統三年哈爾濱鐵路交涉局總辦となり後呼倫貝爾道尹に任ず。

民國元年黑省都督府交涉局總辦、二年二月同省內務司長、三年六月同省綏遠道尹に歷任し、五年十月二等嘉禾章を給せられ六年十二月辭職せり。年齡五十二。

于德濬 (Yü Tê—chün)

字 沁泉

山東省海陽縣人

前清中外務部候補員外郎たりしが、民國成立後外交部交際司接待科科長となり民國四年八月中大夫を授けらる。

于熙亭 (Yü Hsi—ting)

山東寧海縣人

曾て浦鹽にて雜貨營業を習得し、光緒三十一年哈爾濱に雜貨店順和裕を開業す、同地鐵道附屬地支那商務局全總理たり。年齡三十七。

于龍辰 (Yü Lung—ch'ên)

字 雲鄉

直隸省東光縣人

前清の舉人にして曾て奉天省海龍教育公所事務員たりしが、今同省輝南縣教育公所長たり。年齡四十五。

于寶軒 (Yü Pao—hsuan)

字 志昂

江蘇省江都縣人

前清の監生にして曾て民政部承政廳員外郎に任ぜられ、民國成立後内務部民治司長、國制館第一類編纂となり民國四年七月中大夫

三 畫 [于、三]

を授けらる、六年七月交通部秘書に任じ十二月内務次長に昇任せり。

宇 多 (San To)

字 六橋

浙江省杭縣人

幼にして杭の大儒俞曲園の門に學び漢學の造詣あり、杭州知府、杭州武備學堂、同洋務局總辦に歷任し、光緒二十八年北京大學堂提調、同三十三年民政部參議、三十四年歸化城副都統、庫倫辦事大臣等に任ぜり、民國成立後盛京副都統兼金州副都統に任ぜられしが其志を伸ぶるを得ず辭を文筆に寄すといふ、正白旗蒙古人に屬す、現在仍ほ現職に在り。

九

四 畫

【方。孔。文。尹。牛。巴。仇。尤。卞。卞。】

井。戈。元。升。水。公。王】

江西省南昌縣人

方仁元 (Fang Jén—yüan)

前清の監生にして曾て郵傳部小京官候補たりしが民國成立後交通部食事兼寧湘鐵路工程局副局長に任ぜらる。

方大英 (Fang Ta—ying)

字 梅生

湖南省長沙縣人

前清の秀才にして曾て農工商部、各科々員、農事試驗場文牘、庶務科長、農林學校教習、熱河都統、山西巡撫文案等に歷任す。

民國元年以來直隸都督府科員、奉天都督府參謀、行政公署秘書、實業科主任、新民縣知事等に歷任し嗣いて四年七月東遼道尹に拜命し安東交涉員を兼ね以て今日に至れり、又曾て三等嘉禾章四等文虎章を給與せらる、民國五年中日本觀光團を組織し東遊せり。

年 齡 四十六。

方日中 (Fang Jih—chung)

河南省人

明治四十三年五月日本陸軍士官學校砲兵科を卒業せり、歸國後陸軍第二師二營長となり民國四年參謀長に任ず。

方本仁 (Fang Pén—jén)

字 耀亭

湖北省黃岡縣人

前清中軍官學堂を卒業す舊式軍人たり、爾來果敢して民國二年陸軍少將に補せられ江西將軍署參謀長たりしが、六年十二月現在贛西鎮守便として南昌縣に駐在せり。年 齡 四十六。

方玉普 (Fang Yü—p'u)

字 瑤卿

直隸省河間縣人

前清中身を行伍に起し多年軍界に歷職し官陸軍中將に至り民國二年八月曹州鎮守使兼右路巡防營統領に任じ現に山東曹縣に駐在せり。年 齡 四十二。

方有田 (Fang Yu—tien)

安徽省鳳臺縣人

民國四年五月河南豫北鎮守使に任じ以て今日に至れり。

方汝士 (Fang Ja-shih)

安徽省相城縣人

前清中興判として陝西省に赴任し巡警學堂收支陸軍小學堂監督清
理財政局科長等に歷任す。

民國元年同省三原縣代理知事、交涉署科長、財政廳總務科々長、大
陸關稅收局々長等となり第四期知事試驗を免ぜられ同四年巡按使
呂澂元の推舉を以て政事堂の記録に登れり。

方兆鰲 (Fang Chao—ao)

字 策六

福建省閩侯縣人

前清中會で陸軍部主事に任ぜられ民國成立後政事堂銓叙局稽辦兼
參事となり、民國四年二月中大夫上大夫銜を授けらる、嗣いて五
年七月文官甄用委員會委員を命ぜられ、六年十二月現在國務院銓
叙局參事兼稽辦たり。

方汾玉 (Fang Fên—yü)

字 叔珏

福建省閩侯縣人

前清の舉人にして會で郵傳部主事に採用せられ民國成立後交通部
路政司運輸科主事に任用せらる、六年十二月現在同司學業科主事

四 畫 [方]

たり。

方伯樑 (Fang Po—liang)

字 柱臣

廣東開平縣人

初め上海出洋局に學び同治十二年官費を以て米國に留學し「マ」州
中學校に入り理科を修む、光緒六年「マ」州工業學校に入り光緒七
年歸國し、更に天津電報學堂に在りて肄業す、光緒八年蘇州廣州
電報局員に任じ光緒十五年廣州電報學堂教員に任じ、光緒三十
一年唐山路礦學校督務長と爲り光緒三十四年奉天農工商局に在りて
就職し、宣統三年京張京綏鐵路學習工程師に任ぜり。年齡五十八。

方更生 (Fang K'eng—sheng)

字 維新

江蘇省儀徵縣人

會で江蘇第二十二旅長となり、第二革命當時中將に進み第七十五
混成旅長に任じ南京に駐屯せしが民國五年江陰事件後無錫に移駐
せり六年十二月現在仍ほ第七十五旅長たり。年齡四十餘。

方廷璣 (Fang Ting—chi)

字 子恒

廣東省普寧縣人

前清の廣東水師提督方某の子にして會で多年知府に歷任し、又十
餘年前汕頭津務委員たり、嗣いて廣東に赴任せしが數年前辭職し

一 一